

ひと ひと 女と男の一行詩について

1 女と男の一行詩とは

男女共同参画社会の実現に向け、家庭や地域、学校や職場等で感じる「男女差別」や「男女共同参画への想い」などの素朴な気持ちを、自由な発想でユーモア感覚をまじえて詠んだ一行詩をいう。

2 募集の経緯

男女共同参画社会の実現への意識改革と啓発を目的に、「女と男の一行詩」の募集を平成 11 年より始め、2 回目から応募者を限定せず、今年で 22 回を迎えた。毎回、全国から多くの作品が寄せられており、本事業は啓発活動の一環として定着化してきた。

また、平成 22 年に全国初の取組として 10 月 1 日を「女性の日」として定め、平成 24 年 9 月には「男女共同参画宣言都市」となった。昨年度より 10 月 1 日を「男女共同参画の日」に変更し、誰もがお互いの人権を尊重し、生きがいを持って輝けるまちをめざし、啓発事業を行っている。

3 女と男の一行詩の現状と課題（別紙参照）

応募対象者、市内学校への依頼方法の変更や冊子・カレンダーの作成等を行ってきた。また、広報、HP、出先機関等での掲示等も行ったが、市民の応募は減少している。

一行詩を募集していることは、市民にある程度浸透していると考えられるが、応募までに至らず、市内の学校応募についても学校の状況により大きく変動している。

また、これに加え、応募作品のマンネリ化、これまでの入賞作品を参考にした作品が多く、募集の目的である『身の回りで感じる「男女差別」や「男女共同参画への想い」などの素朴な気持ちを、自由な発想で表現したもの』が少なく審査が難しい状況となってきている。

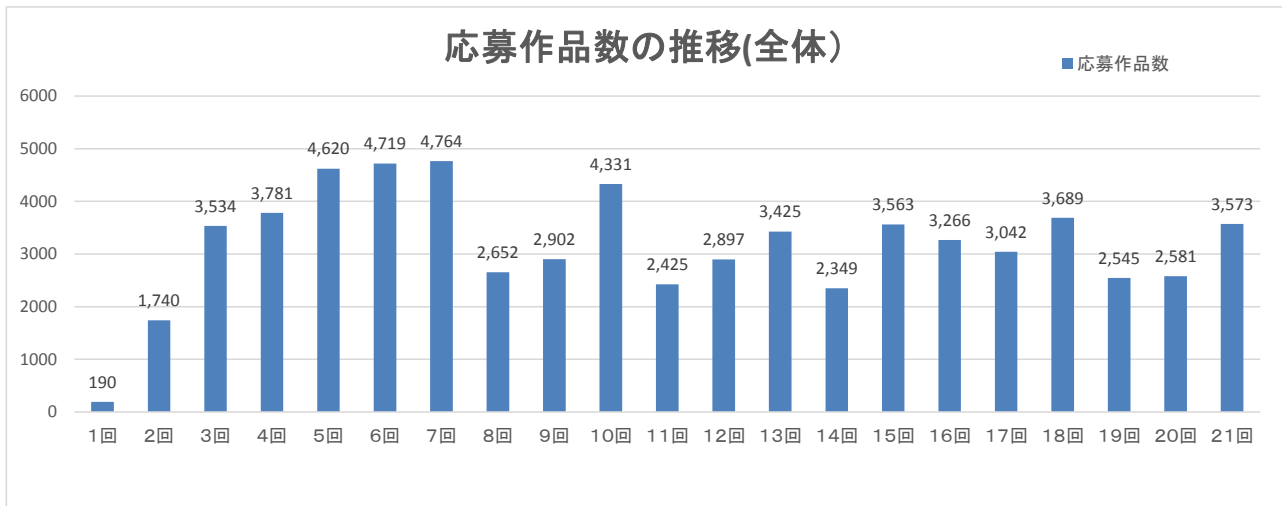
これらのことから新たな啓発事業を計画する必要があると考えている。

4 女と男の一行詩のこれから

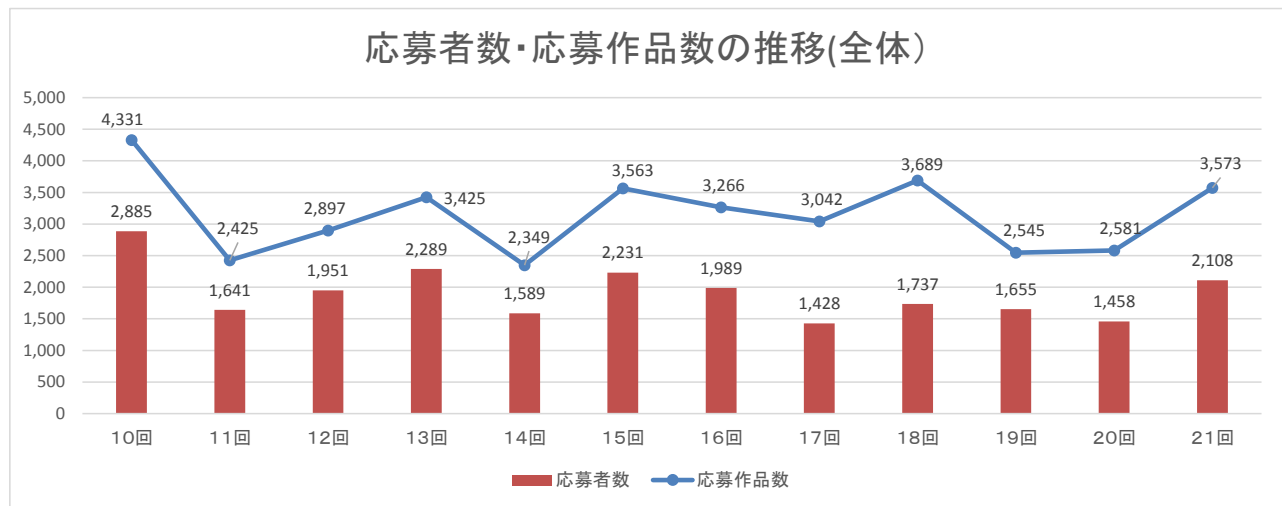
- (1) 女と男の一行詩事業の規模を縮小【①市在住・在学・在勤の人のみ ②市内の小・中・高校のみ】とし、新規の男女共同参画事業を実施する。

- (2) 女と男の一行詩事業は第22回目までとし、新規の男女共同参画事業を実施する。

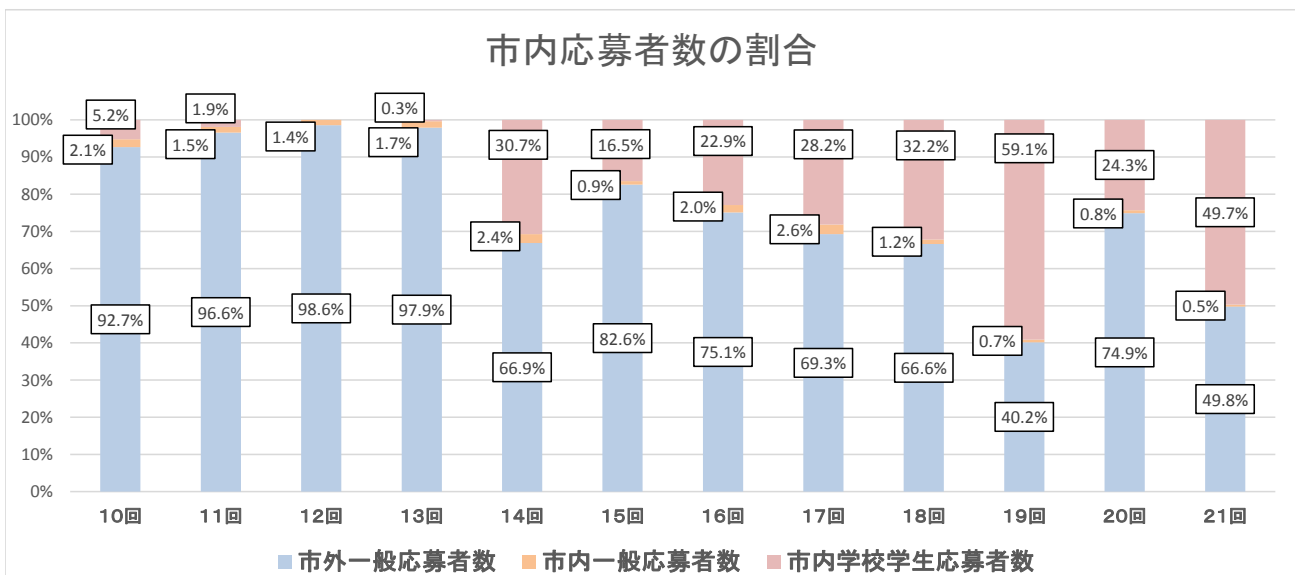
女と男の一行詩応募状況分析



応募作品数は、第2回目から応募対象を限定せずに募集を行ってきたため増加したが、第7回目を最高にその後、減少している。変動はあるが、ここ5年間では、2,500～3,600作品の間で推移している。

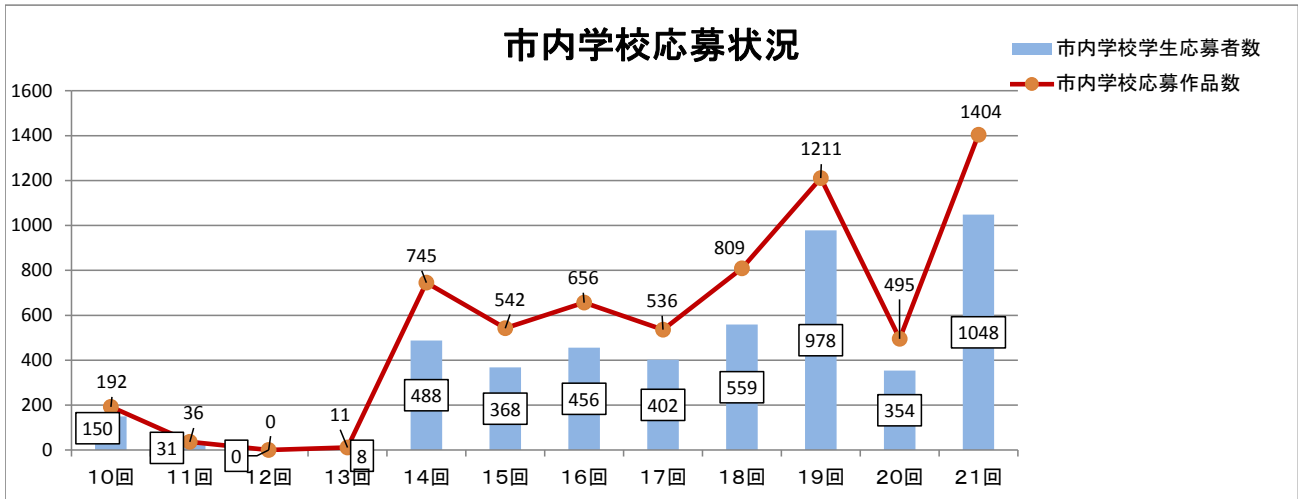


応募作品数の規定を設けていないことから、一人で何十作品も応募される場合もあるが、平均すると一人1.5～2作品程度である。応募者数は、ここ5年間では1,400～2,200人の間で推移している。



市民及び市内の学校に通学される学生の全体に占める応募割合は、第14回目から市内中学校・高校にクラスごとに分けた申込書を持参することで、応募者は増加したが、市民の応募は減少傾向にある。学校応募は、学校の実情により変動が大きいと考えられる。過去5年では、全体の30～60%が市内からの応募者である。

市内学校応募状況



市内在住者応募状況

